

「ネイチャーポジティブ」という考え方や 言葉が広まりつつある背景は?

2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)におい て、昆明・モントリオール生物多様性枠組(Kunming-Montreal Global Biodiversity Framework, GBF) が採択されました。GBFには、2030年ミッションとして、「自然を回復軌 道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる」というネ イチャーポジティブのコンセプトが取り入れられ、これによりネイチャーポジティブの認 知度が高まりました。GBF採択やネイチャーポジティブの普及に至るまでの主な出来事 は図表1をご覧ください。

GBFでは、2030ターゲットとして23の目標を掲げており、目標15(ビジネス)では、 企業に着目し、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存・影響の評価・開示とモニ タリングの実施に言及しています(図表2)。

図表2 GBFの全体像

2050年ビジョン 自然と共生する世界

2050年ゴール

・生態系の健全性、連結性、レ ジリエンスの維持・強化・

回復。自然生態系の面積増加 ・人による絶滅の阻止、絶滅率 とリスクの削減。在来野生種 の個体数の増加 遺伝的多様性の維持、適応能

力の保護

B 生物多様性が持続可能に 利用され、自然の寄与(NCP) が評価・維持・強化

C 遺伝資源、デジタル配列 情報(DSI). 遺伝資源に関連 する伝統的知識の利用による 利益の公正かつ衡平な配分と 2050年までの大幅な増加に より、生物多様性保全と持続 可能な利用に貢献

D 年間7,000億ドルの生物 多様性の資金ギャップを徐々 に縮小し、枠組実施のための 十分な実施手段を確保

2030年ミッション 自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

(3)ツールと解決策

1. すべての地域を参加型・統合的で生物多様性に配慮し た空間計画下及び/又は効果的な管理プロセス下に置く

2. 劣化した生態系の30%の地域を効果的な回復下に置く 3. 陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及び OECMにより保全 (30 by 30目標) 4. 絶滅リスクを大幅に減らすために緊急の管理行動を確

保、人間と野生生物との軋轢を最小化 5. 乱獲を防止するなど、野生種の利用等が持続的かつ安

全、合法なものにする 6. 侵略的外来種の導入率及び定着率を50%以上削減

7. 環境中に流出する過剰な栄養素の半減、農薬及び有害 性の高い化学物質による全体的なリスクの半減、プラ スチック汚染の防止・削減

8. 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ等 を诵じた、気候変動による生物多様性への影響の最小化

(2)人々のニーズを満たす

9. 野生種の管理と利用を持続可能なものとし、人々に社 会的、経済的、環境的な恩恵をもたらす

10.農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、 生産システムの強靭性及び長期的な効率性と生産性、 並びに食料安全保障に貢献

11 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ を诵じた、自然の寄与(NCP)の回復、維持、強化 12. 都市部における緑地・親水空間の面積、質、アクセス 便益の増加、及び生物多様性を配慮した都市計画の確保

13. 遺伝資源及びデジタル配列情報(DSI)に係る利益配分 の措置をとり、アクセスと利益配分(ABS)に関する文 書に従った利益配分の大幅な増加を促進

(1)生物多様性への脅威を減らす

14. 生物多様性の多様な価値を、政策・方針、規制、計画、 開発プロセス、貧困撲滅戦略、戦略的環境アセスメ 環境インパクトアセスメント及び必要に応じ国民勘定に 統合することを確保

15.事業者(ビジネス)が、特に大企業や金融機関等は確実に、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影 響を評価・開示し、持続可能な消費のために必要な情報 を提供するための措置を講じる

16. 適切な情報により持続可能な消費の選択を可能とし、 食料廃棄の半減、過剰消費の大幅な削減、廃棄物発生の

大幅削減等を通じて、グローバルフットプリントを削減 7. バイオセーフティのための措置、バイオテクノロジ-の取り扱いおよびその利益配分のための措置を確立

18. 生物多様性に有害なインセンティブ(補助金等)の特定、及びその廃止又は改革を行い、少なくとも年間 5,000億ドルを削減するとともに、生物多様性に有益な インセンティブを拡大

19. あらゆる資金源から年間2,000億ドル動員、先進国か ら途上国への国際資金は2025年までに年間200億ドル、 2030年までに年間300億ドルまで増加

20. 能力構築及び開発並びに技術へのアクセス及び技術移 21. 最良の利用可能なデータ、情報及び知識を、意思決定者、

実務家及び一般の人々が利用できるようにする 22. 女性及び女児、こども及び若者、障害者、先住民及び 地域社会の生物多様性に関連する意思決定への参画を確

ゆるレベルで参画を認めることを含めたジェンダーに対 応したアプローチを通じ、ジェンダー平等を確保

(出所:環境省)

ネイチャーポジティブとは?

日本語に訳すと「自然再興」(環境省による定訳)。 「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損 失を止め、反転させる」ことを指します。地球上 の生物の種が加速度的に絶滅していくなど、マイ ナスの方向にある現状を踏まえ、自然環境の保全・ 維持という従来行われてきた取り組みだけではな く、自然を今より豊かに、プラスの状態にしてい くことが趣旨です。

- Nature Positive —

早わかり

図表 1 GBF採択、ネイチャーポジティブの普及に至るまでの主な出来事

1992年 2010年 2015年 2020年 2021年 2022年 5月 9月 6月 12月 10月 9月 指すことが示され年ビジョンとして「愛知目標」採択(続月 星 ミット) 「持続可 テ2の昆 ナイブの概念が2030年ミックの採択(CBD! と**G**7 /様性を ||多様性 リーダー 可 可能な利用などを目的とす :生物多様性の保全、そ **物多様性条約]採択(発効** 2030 能な開発目標 回復にサミーによ 復の道に導く ミット): 0 による自然。 か取り入っ ション・ ・ オール生 公英年 れてC CBP Septimental ŝ へれられる 15): 愛知[15): 愛知[2 ^ (大) (大) (大) 以用される: ネイチャー Ď のの 3 誓 G 八生する (生する るのは が〇約 s)]採択 (示され (示され) 構 1 公目 村 標 組 る世界」 成 9 -ポジ 要9素3 ヤの**G** (国連 れた国 。後 B ー を 目 0 の年 ポジをより

関連記事



15ページ インタビュー: CBD事務局長代理 デイビッド・クーパー

22ページ 解説:昆明・モントリオール生物多様性枠組 (GBF) について

24ページ 解説:生物多様性国家戦略2023-2030の概要

36ページ 寄稿: COP16に向けた生物多様性をめぐる国内外の動向

月刊 経団連 2024 · 5

(2) 日本政府の動きは?

GBF採択を踏まえて、2030年までにネイチャーポジティブを達成するとの目標を掲げた「生物多様性国家戦略2023-2030」(以下、国家戦略)が2023年3月に閣議決定されました。国家戦略の基本戦略3では、「ネイチャーポジティブ経済の実現」として、リスクや機会の評価、目標設定、情報開示、ファイナンスに言及し、関連する状態目標・行動目標を掲げています(図表3)。

2024年3月には、 基本戦略3を具体 化した「ネイチャー ポジティブ経済移行 戦略」が公表されま した。

また2023年4月には、企業による 国家戦略の実践するため、「生物多様性民間参画ガイドライン(第3版) ーネイチャーポジティブ経営にする てー」が公表されています。



解説:生物多様性国家戦略2023-2030の概要

寄稿:自然共生サイトの法制化

企業が認識すべき点は?

24ページ

38ページ

GBF、国家戦略のいずれにおいても、ビジネスに関係する目標設定や企業が取り組むべきこと について言及されており、企業の役割への期待は大きくなっています。

加えて、2023年9月には経済活動による自然への依存・影響、リスク・機会を評価し情報開示する枠組みを示した自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)提言が公表され、投資家の関心も高まりつつあります。

自然への負荷は気候変動や資源利用等からも生じていることから、ネイチャーポジティブの実現に当たっては、脱炭素化、資源循環を含む環境全般への取り組みを事業活動に取り込んでいくことが重要です。経団連では、「サステイナブルな資本主義」の実践に向けて、グリーントランスフォーメーション(GX)、サーキュラーエコノミー(CE)、ネイチャーポジティブ(NP)を一体的に捉えたサステナビリティ経営を推進していきます。

関連記事

K

18ページ インタビュー:経団連自然保護協議会会長 西澤敬二

26ページ 解説:自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) 提言について

29ページ 解説:経団連自然保護協議会の取り組み

40ページ 寄稿:TNFD開示フレームワーク公表後の動向

42ページ 寄稿:枠組み作りから行動へ

44ページ 寄稿:ネットゼロ目標だけでなくネイチャー戦略の策定も必要との認識が高まる